

## 「私の責任」

河野 希美

東京オリンピックが開催されるはずだった2020年、世界中が新型コロナウイルスの脅威にさらされ、世界は一変しました。日本も例外ではなく、未だに感染者数増加のニュースを聞かない日はありません。昨年2月には、全国の小中高校で一斉休校になったのに続き、4月には全国に緊急事態宣言が出されました。「不要不急の外出をしない」、「三密を避ける」などの政府の呼びかけに応じて、国民一人一人が自粛を心掛けた効果もあって、一時的に感染者数は減少傾向にありました。しかし、第2波、第3波と次々と大きな波が押し寄せ、現在も感染者の急増により医療機関は逼迫している状況です。このような状況ではありますが、政治の動きに関心を持った人は多いのではないのでしょうか。私自身もコロナのことが気がかりで、ニュースや新聞を見るが多くなりました。

これまでも政治や選挙については、ニュースや新聞で多く報道されてきましたが、コロナのように気に留める人はあまりいなかった気がします。その理由としては、政治の知識が少なく、どこか他人事で、身近に感じられず、自分にはあまり関係のないものとして関心を持ってないからだと思います。

令和元年7月に行われた参議院議員選挙の投票率は、全体では48.8%、年代別では、10代が32.28%、20代が30.96%、30代が38.78%と、若年層の投票率が低いことがわかります。それでは、現在の状況はどうでしょうか。とある民間の調査会社が昨年5月にインターネット上で実施したアンケート調査の結果によると、「仮に今、衆議院が解散した場合、選挙に行くか？」との質問に対し、「行く」「たぶん行く」と答えた20代までの若年層は、8割を超えていました。実際の選挙の投票率を大きく上回る結果となっていたことに、私はとても驚きました。

その背景にあるのは、コロナの影響で仕事を失ったり、オンライン授業や外出自粛などで家にいる時間が増え、将来に不安を感じて、政治や経済の動向に関心を持つ人々が多くなったからではないかと思います。

私は、学校でボランティア活動を行う部に所属していますが、昨年はコロナの影響でイベントやボランティア活動自体が激減し、人の役に立ちたくても立てない日々が長く続きました。

私の家はきゅうり農家を営んでいます。もし、一人でも家族がコロナに感染してしまうと、収穫も出荷も難しくなり、私の家族だけでなく、従業員やその家族も死活問題となります。その後の風評被害もとても怖いので、自分が感染

しないように、誰かに感染させないように気を付けて、一人一人が考えて行動することの大切さを、今回のコロナでとても考えさせられました。

投票も同じではないでしょうか。私たち一人一人が、候補者の政策をよく聴いて、どの候補者に投票すれば、自分達の思いに寄り添った政策を講じてくれるのかを真剣に考えて投票しなければならないのです。私たちの一票は、私たちの生活を変える一票につながるかもしれない、とても責任の重い一票です。有権者の皆さんも、自分の町や、県、国をもっと住みやすい場所にしようと考えてるのであれば、もっと政治に関心を持ち、投票に行くべきだと思います。

私には、将来人の役に立つ仕事に就きたいという夢があります。今は、夢の実現に向けて勉学に励む高校生ですが、今年18歳になり、選挙権を持つ一人になります。そして、1年後には、社会人になります。

有権者の皆さん、自分のために、また大切な人のために、自分以外の誰かが決める政治ではなく、自分で決める政治にしませんか？

私はこれから必ず投票に行きます。この一票は、私の責任だからです。